



麦の多収をめざして ～播種までの取り組み～

本県の麦類の10a当たりの平均収量は小麦は310kg、二条大麦は262kg、六条大麦は254kgと低い水準にあります（はだか麦は321kgと全国で3番目に多収ですが、さらに改善の余地があります）。多収・高品質のためには出芽率を良くして、早い時期に茎数を多く確保し、初期生育を旺盛にすることが大事なポイントです。多収をめざすことで1等比率も向上します。

1. 排水対策の徹底

本県の麦は、約7割が水田（輪換畑）で栽培されており、低収の大きな原因の一つは湿害です。特に出芽時の湿害は生育を極度に抑制し、登熟期（出穂から成熟まで）の湿害は子実の充実を悪くしてしまいます。排水をよくして湿害を回避することが基本です。排水対策には暗渠の設置とともに、効果を高めるために弾丸暗渠やサブソイラなどの補助暗渠を取り入れることも必要です。また、明渠を掘り、圃場表面の水を速やかに排水することも大変重要です。

2. 土壌の改良など

- 1) 作土の酸度はpH(KCL)5.5～6.0になるように、苦土石灰または消石灰を施用して矯正します。
- 2) 作土の有効態リン酸は、乾土100gあたり10mg以上となるように、ようりんや苦土重焼りんなどの資材を施用します。
- 3) 砕土が不足すると出芽不良になるので、2cm以内の土塊が70%以上になることを目標に、ていねいに耕うんします。
- 4) 土作りのため、10aあたり堆肥を1t程度施用します。

3. 種子消毒

麦類で種子伝染する重要な病害として「なまぐさ黒穂病」、「裸黒穂病」、「斑葉病」、「条斑病」などがあります。発病すると大きな減収や品質低下を招くばかりでなく、販売が困難となる場合があります。播種前に種子の消毒が必要です。

表1 麦類の主な種子消毒薬剤と処理法ならびに対象病害（令和5年9月20日現在）

薬剤名	処理方法	なまぐさ黒穂病	裸黒穂病	斑葉病	条斑病	分類
トリフミン水和剤	種子重量の0.5%種子粉衣	○	○	○		3
ベフラン液剤25	乾燥種子1kgあたり原液3～5ml種子吹き付けまたは塗沫	○		○ (小麦を除く)	○	M7
ベンレートTコート	乾燥種子重量の0.5%種子粉衣	○	○	○	○	1とM3
ホームイ水和剤	種子重量の0.5～1.0%種子粉衣	○		○		1とM3

注) 分類欄にはFRACコードを記載しました（コードが2つは混合剤）。同一分類（コード）は作用点が同じなので連用は避けてください。

4. 基肥施肥量と播種量

適切な基肥施用と播種量により茎数と穂数を多くし、多収・高品質を目指します。六条大麦の播種量は、カシマムギは10aあたり8kgとしますが、カシマゴールは茎数が多く、穂数が多すぎて小粒になりがちなので、6kgと少なめにします。

表2 基肥施肥量と播種量(kg/10a)

麦種	窒素	りん酸	カリ	播種量
小麦	6～7	6～9	6～7	8
六条大麦	6～7	6～9	6～7	8(6)
二条大麦	5～6	6～8	5～6	10
はだか麦	8～9	8～12	7～9	8～10

- 注) 1. 水田輪換畑のドリル栽培の施肥量と播種量。畑ドリル栽培も同様ですが、はだか麦は各成分とも少ない量とします。
2. 六条大麦の播種量は、カシマゴールは6kgとします。

5. 適期播種の徹底

六条大麦は11月上旬が、小麦、二条大麦、はだか麦は11月上～中旬が播種適期です。適期に播種されたものは、茎数が多く初期生育が旺盛となって穂数が多くなり、収量・品質が高くなりますが、播種期が遅れると、出芽率は低くなり、十分な生育量が確保できず、茎数と穂数も少なくなり収量・品質が低下します。天候や作業の関係でやむを得ず播種が遅れる場合でも、11月一杯に作業が終わるようにしましょう。

6. 適切な播種深度を

播種深度3cmは出芽までの時間が早く、出芽率も高く、茎数と穂数が多くなり、多収になります。それに対して、深さ5cm以上の深播きにすると出芽までの時間がかかり、出芽率が低くなります。また、茎数と穂数も少なくなり収量・品質が低下します。適切な播種深度になるように、毎年播種機の調整をしましょう。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は JA 全農いばらきホームページでもご覧になれます。